

連載 私の町はどんな町 ⑥

鴻巣市(鴻巣宿)

鴻巣市へ入る前の「深井」という地名の中山道は、急に道幅が広がっています。大名行列等が、桶川宿に入る前に馬を止めて隊列を組み直すための場所と言われています。

鴻巣市は隣の旧岩槻市と共に「雛人形のふるさと」と自稱していますが、一六三六年に日光東照宮が完工し、この大事業に動員された全国の名匠・名工が岩槻や鴻巣に滞泊し、各自の特技を土着の伝統工芸に取り入れたのが人形の元祖だそうです。

本町八丁目に中山道沿線のうち屈指の名刹『勝願寺』の黒い総門が見え、額に「梅檀林」と書かれてい、梅檀とは学問所のこと、京都知恩院に属し、関東浄土宗の檀林のトップに位しています。

鴻巣駅へ左折する角辺りに本陣、脇本陣があったと絵図にあります、数次の火災で

今シリーズは皆さんの住む町の歴史を取り上げる新シリーズです。中山道を北へたどりませう。

宿に秘蔵していた古文書等は滅失し、宿の歴史は全く残されていません。

本町一丁目に国定忠治が滞留したり、帰郷途中仮泊した一茶が「さみだれや 胸につかえる秩父山」の一句を残した往時の旅籠「油屋」が残っていますが、観察するような状態ではありません。

中山道より南西へ一キロの鴻巣高校南隣に、清和源氏の祖である『源経基の館跡』があります。経基は清和天皇第六皇子貞純親王の長子で、九三一年武蔵介として下向し、姓源朝臣を賜って臣籍に列しここに城を築き清和源氏の元祖となったのです。渚木の密植する東西一五〇米、南北九十五米の小丘堡で、三方を巡らす堀と高さ三米位の土塁が残っています。

当時の歴代の天皇家は皇子が多く、京では財政に苦しく多くの皇子を地方に下し、源

氏や平氏の臣籍を与え生計をたたせていました。親王は○守となるが赴任せず、現地へ行くのは皇子の「介」で経

基は武蔵介としてこの地に赴任したのです。必然的に政府から派遣された「介」と、地方の行政をつかさどっていた「郡司」との間で紛争が絶えません。経基も例にもれず、足立郡司「武蔵武芝」と紛争になります。武芝は平将門に助けを求め、将門自らも国司に反感をもつていたので、同じ立場の武芝を応援しました。経基の館は、平将門の乱で兵糧攻めにあい落城したと伝えられています。

中山道は高崎線を渡り西側へ出ると昔の箕田村(鴻巣市箕田)へ入ります。ここは丹波大江山に棲む『酒呑童子』を退治した源頼光の四天王の一人、渡辺綱の生誕地です。「渡辺綱」は源氏ですが、嵯峨天皇の皇子「源融」から出ている嵯峨源氏で、融の孫「仕」が武蔵守となり箕田に住んで源経基に仕えて『箕田源氏』と称しました。

仕の孫「綱」は経基の孫の頼光に仕え撰津の渡辺庄に住み渡辺を名字にしたのです。

箕田の綱を祀る「氷川八幡神社」は地元では「綱八幡」と云われています。

数年前、綱八幡の裏手にある「宝持寺」を訪ねて住職から箕田源氏に関する話を聞きました。その時、滅多に誰にも見せたことのないという黒ずんだ厨子に納められている『渡辺綱の位牌』を見せてくれました。

住職の話では、渡辺綱は今から一千年位前の人ですが、この位牌は三五〇年前に綱の子孫で箕田に住んでいた「渡辺十兵衛掾渡辺高」という人がこの寺に預け、後々の供養を依頼したものと、そのことが位牌の裏に書いてありました。

綱は兵庫で死んだので、墓は坂田金時らと同じ場所(川西市)にあるとのこと。

源氏の町鴻巣市は、もっと探訪したい町です。

(小島 次郎)

ISO9001・14001に裏づけされた高品質な
工事と誠実なアフターケア環境にやさしい
リニューアルを提供します。

本社 川崎市川崎区大川町8-1

TEL 044-366-4807(営業部)

FAX 044-366-4810

URL <http://www.sinyo.com>

ビル・マンション等のリニューアルはシンヨーにお任せ下さい。



シンヨー株式会社